

令和元年度 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 学校関係者評価

4段階評価 「4…期待以上である(できている)」 「3…ほぼ期待どおりである(ほぼできている)」 「2…やや期待を下回る(あまりできていない)」 「1…改善を要する(できていない)」

学校 目標	幼児・児童・生徒の個性を重んじ、一人一人の障がいの状態や発達段階、特性等に応じた指導及び支援を行い、その可能性を最大限に伸ばすことで、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。					
経営 ビジョン	「聴覚に障がいのある子どもたちに教育を」の本校創立の理念を 踏まえ、言語力向上を基盤とし、本校の教育目標を具現化するため、聴覚障がい教育の使命を自覚し、変化する社会に主体的に対応できる「生きる力」を育て、創造性豊かな活力のある教育を推進する。					
評価 項目	評価指標	自己 評価	保護者 評価	学校の自己評価(成果・課題等)	学校関係者 評価	学校関係者からの感想並びに提言等
(1) 学力の 向上と 多様な 進路 実現	① 児童生徒は学校に行くのを楽しみにしていると思いますか。	3.2	3.6	○ 幼児児童生徒が学校生活を楽しくしている様子も同われ、学校としては喜ばしい結果となった。今後も、学校生活を楽しくする魅力ある学校づくりに引き続き取り組んでいきたい。	3.0	○ 学校が、子供たちにとって居心地のよい環境であることがよく分かる。また、行事等に参加した際に、子供たちが明るく元気よく活動している姿が見られる。引き続き楽しい学校づくりに取り組んでもらいたい。 ○ 重複障がいのある指導生徒への学習においては、ICTなど様々なツールを活用しながらより分かりやすい授業づくりに取り組んでいく必要がある。また、学力向上・学力定着に向けて、更に取り組んでほしい。
	② それぞれの授業において、学力向上を意識した指導が実施できていますか。	2.7	3.4	○ 保護者からは概ねよい評価をいただいた反面、職員の評価は今一步である。今後も、学力向上を意識した指導により留意しつつ、日々の授業を実施していきたい。	3.0	
	③ 子供たちの各課題に応じた分かりやすい授業が実施できていますか。	2.9	3.3	○ ②と同様に、保護者からは概ねよい評価をいただいた反面、職員の評価は今一步である。個別の支援計画や個別の指導計画の活用及び充実を図りつつ、日々の授業を実施していきたい。	3.0	
	④ 学習効果を高めるための教材教具の工夫や改善が実施できていますか。	3.1	3.4	○ 職員、保護者共概ねよい評価結果となったが、今後もこの結果に甘んじることなく、興味関心をもちながら取り組める教材教具の工夫や改善に引き続き取り組んでいきたい。	3.0	
	⑤ 学校と家庭が連携した効果的な指導が実施できていますか。	2.9	3.3	○ 保護者からは概ねよい評価をいただいた反面、職員はまだ効果的な指導が展開できるのではと考えている。学校と家庭が連携した指導であればあるほど子供たちのよりよい成長が望めることから、今後も努力していきたい。	3.0	
	⑥ 個々の実態に応じた進路指導が実施できていますか。	2.9	3.2	○ 個々の実態に応じた進路指導の実施に努めてきたが、保護者からは概ねよい評価をいただいた。今後も各関係機関と連携しつつ、更なる進路指導の充実を図れるようにしていきたい。	3.0	
	⑦ 職業理解のための情報提供、進路相談等が実施できていますか。	2.8	3.5	○ 進路に関する各取組について、保護者からは概ねよい評価をいただいた。今後も、進路に関する相談等も積極的に実施しつつ子供たちの進路実現に向けて取り組んでいきたい。	3.0	
(2) 人権 意識 の 向上	① 人権の意義・内容や重要性が理解できるようになる指導が実施できていますか。	3.1	3.4	○ 今年度の学校経営重点目標に「自分と異なる価値観を認める心、お互いを尊重し認め合う心など、心の育成をはかり、幼児児童生徒が存在感をもって生活できる生き生きとした学校づくり」を掲げ、取り組んできたが、職員、保護者共概ねよい評価結果となった。一方、自己肯定感を高める指導について更に取り組んでいく必要性も感じている。今後もこの結果に甘んじることなく、人権意識の向上に向けて取り組んでいきたい。	3.2	○ 医療・福祉・教育の連携は、大変重要である。その連絡等について、どうしても職員の休憩時間や放課後にせざるを得ない場合もあると思うが、働き方改革の観点からも少しでも解決が図られていくとよいのではと思う。 ○ SNSは便利なツールではあるが、反面使い方次第では危険な要素も持っている。そのため、子供たちには、メディアリテラシーをより育てていく必要性を感じる。
	② 自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになる指導が実施できていますか。	3.1	3.3		3.2	
	③ 自他の大切さについて、様々な場面での具体的な態度や行動に現れるような指導ができていますか。	3.1	3.5		3.2	
	④ 自分や他者の人権を守るための行動につながるような指導が実施できていますか。	3.1	3.4		3.2	
の専(3) 向門 上性)	① 障がいの実態に応じた指導が日々実践できていますか。	3.2	3.4	○ 今年度も、障がいの実態に応じた指導や子供や保護者の教育的ニーズをいかした指導に努めてきた。今後も、校内研修の充実を図りながら、質の高い授業を実施するよう努めていきたい。	3.3	○ 卒業後の社会において困った際は、自ら周りに発信する力が必要である。そのため、生徒たちには在学中において、自ら周りに積極的に発信する力をつけてほしい。
教(4) 育い 推地 進域 早覚 支期 障	① 教育相談体制の充実を図る取組が実施できていますか。	2.9	3.1	○ 教育相談等の各支援については概ね実施できているように感じるが、増加傾向にある家庭支援については今後必要性を感じる。その対応に向け、校内支援体制の再構築や整備に取り組めればと考える。	3.0	
	② 地域に、学校の取組や必要な情報を伝えることができていますか。	2.7	3.1	○ 今年度もホームページの定期的なブログ更新を推進するなど、教育活動の発信に積極的に取り組んだが、啓発不足の一面もあったように感じる。今後はSNSを活用するなど、新たな取組を模索しつつ啓発に努めたい。	3.0	
(5) そ の 他	① 施設や学校設備(遊具含む)の整備や環境美化が十分なされていますか。	2.8	3.1	○ 施設については、設置から50年近くになり、随所に老朽化が目立つ状況にある。今後も事務部や関係部署と連携しながら、幼児児童生徒に関係する遊具や施設の安全を徹底していきたい。	2.8	
	② 災害への対応や緊急時の対応が整備されていますか。	2.8	3.3	○ 今年度5月の地震の際、緊急時の幼児児童生徒への伝達方法について課題が発生し、早急した。しかし、万全とはいえない状況もあることから、分かりやすい伝達方法について引き続き検討していきたい。	3.0	